

令和7年1月15日(水)  
大会議室

令和6年度第2回新宿区消防団運営委員会次第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 定数の確認

4 議 題

(資料「新宿区消防団運営委員会答申書(案3)」)

諮問事項

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

5 その他

今後の予定

6 閉 会

(案 3)

新宿区消防団運営委員会答申書

新宿区消防団運営委員会

## 目 次

第 1	諮問事項	1 頁
第 2	諮問の趣旨	1 頁
第 3	課題	1 頁
第 4	検討事項及び方向性	1 頁～2 頁
第 5	検討事項における新宿区内消防団の現状	2 頁
第 6	提言	2 頁～7 頁
第 7	まとめ	7 頁

### 【資料】

別紙 1	新宿区内における消防団員の構成状況	8 項
別紙 2	新宿区内各消防団員に対するアンケートの実施結果	9～20 項
別紙 3	新宿区内各消防団事務局に対するアンケートの実施結果	21～23 項
添付資料 1	「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」（抜粋）	24 項
添付資料 2	特別区消防団の災害活動能力強化に向けたロードマップ	25 項

## 第1 諮問事項

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

## 第2 諮問の趣旨

特別区消防団は地域になくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところです。

さらに、本年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待は更に高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。

## 第3 課題

諮問における現状の課題は次のとおりである。

- 1 地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。
- 2 活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

## 第4 検討事項及び方向性

- 1 入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況（構成等）を踏まえ検討する。
  - (1) 団活動によりやりがいを持てる方策の検討
    - ア やりがいを感じる活動や各世代等でやりがいに違いがあるかなどを検討
    - イ 検討結果に基づき、やりがいを持てる方策内容を検討
  - (2) 資格取得講座の拡充等の検討
    - ア 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等について検討
    - イ 多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討
  - (3) 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討
    - 各地域に根付いている企業や官公庁、消防団協力事業所等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘
- 2 最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

- (1) 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討
  - ア MCA無線に代わる無線機への更新や配置人員の見直し、無線関係機器の統合による利便性の向上の検討
  - イ 電話や緊急情報伝達システムに代わる出場指令手段の導入など
- (2) 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討
 

現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入など
- (3) 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等の検討
 

環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上、負担軽減
- 3 消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。
  - (1) 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討
  - (2) 経験豊富な団員（中核となる団員）による訓練指導体制等の検討
  - (3) 操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討
  - (4) 訓練効果の確認方策について検討
- 4 地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。
  - (1) 積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法の検討
  - (2) 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討
- 第5 検討事項における新宿区内消防団の現状
  - 1 新宿区内における消防団員の構成状況（別紙1）
  - 2 新宿区内各消防団員に対するアンケートの実施結果（別紙2）
  - 3 新宿区内各消防団事務局に対するアンケートの実施結果（別紙3）
- 第6 提言
 

検討事項と方向性を基に、新宿区内各消防団員及び各消防団事務局に行ったアンケート結果（別紙2及び別紙3）及び新宿区の特性を踏まえて対応方針を提言する。

  - 1 入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況（構成等）を踏まえ検討する。
    - (1) 団活動によりやりがいを持てる方策の検討
      - ア やりがいを感じる活動や各世代等でやりがいに違いがあるかなどを検討
 

Q4及びQ5のアンケート結果からは、現役の団員の世代間での「やりがい」には大きな違いはなく、全体の90%の団員から「大いにやりがいを感じる」もしくは「ある程度は感じている」という結果であった。

このことから、新宿区内の既に入団している団員からは、世代に関係なく、現在行っている消防団活動全般において、一定の「やりがい」を持っている。

しかしながらQ13の回答の中に「団員用保育所」を望む声があることからよりやりがいを持てる方策として、子育て世代が安心して積極的に消防団活動に取り組めるよう、ベビーシッターサービスや訪問保育サービス等への助成制度を是非検

討すべきである。

イ 検討結果に基づき、やりがいを持てる方策内容を検討

団員の多くは「地域貢献」や「災害活動」に対して「やりがい」を感じており、「地域のために」との思いから、消防団活動に従事していることが伺える。

このことから、より地域に寄り添った活動をより多く行うことが、消防団員のやりがい向上のために必要である。

(2) 資格取得講座の拡充等の検討

ア 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等について検討

消防団員へのアンケート結果(Q7)では、消防団員の多くが消防団活動において必要と思われる資格について「特になし」と回答しているものの、同アンケート(Q6)の「やりがいを持つこと」の問いに対しては、全体の約20%の消防団員が「資格を取得できる」ことに対してやりがいを感じている。

このことは、既に資格を取得していることから、今以上の資格取得を希望していないことも考えられる。

実際に事務局から資格取得などの募集をかけると「小型船舶操縦士免許」、「第三級陸上特殊無線技士」「可搬ポンプ等整備資格者特例講習」「英会話」「手話」の順に受講希望者が多くあり、受講や資格取得を希望しながら募集人員の制限により、希望がかなわないことがあるなど、各資格取得の講座の募集人員を拡大する必要はある。

イ 多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討

消防団員へのアンケート結果(Q8)では、事業所や行政が実施している講習や講座で意見を調査したところ、特に「これ」といった講習などはなかったものの、同(Q13)のアンケート結果からは、過去の災害の経験談を聞きたいなどの意見もあり、団員同士の繋がりや教えを共有する「絆」を深める交流が必要である。

(3) 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討

(各地域に根付いている企業や官公庁、消防団協力事業所等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘)

前項同様に、団員から希望する受講講座などはなかったものの、消防団員へのアンケート結果(Q8)では、少数ではあるが、外国語の講座受講希望があることに加え、同(Q11)では49人がタブレットに翻訳アプリを入れてほしいとの希望があることから、外国人とのコミュニケーションに不安を感じる消防団員がいることも確かである。

多種多様な外国人観光客などが多く存在する新宿区においては、外国人とのコミュニケーションが円滑に図られる講座の受講が必要である。

また、視覚や聴覚に障害をお持ちの方とのコミュニケーション能力を向上させる

講習や講座の受講は、あらゆる地域住民に防災行動力を高めていただくために必要なものであり、それらの知識、教養を高める機会を増やすべきである。

## 2 最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

### (1) 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討

#### ア MCA無線に代わる無線機への更新や配置人員の見直し、無線関係機器の統合による利便性の向上の検討

消防団員へのアンケートの結果(Q9)で、MCA無線(全国に点在する中継局を介して通信を行うマルチチャンネルアクセス無線の略称)に代わる無線機や統廃合の希望についての意見を聞いてみたが、「特になし」の意見が最も多かった。

MCA無線機での交信時にはプレストークボタンを押した時に、機械が自動的にチャンネルを探す方式のため、つながるまでに僅かなタイムラグが生じる。その間プレストークボタンを離してしまうとチャンネルがリセットしてしまうので、押し続けて「ピッピ」と音が鳴ってから交信する必要があり、人によってはこれが使いづらいと感じる人がいる。

アンケートの結果からは、「特になし」の次には、現行の400MHz帯のアナログ無線機に「団専用チャンネル」設定や、新しい技術により開発されたデジタル高出力無線機(無線局の登録のみで特殊無線技士などの資格を必要としないもの)の導入を求める意見があり、統廃合や新しい機種を導入を検討する必要がある。

#### イ 電話や緊急情報伝達システムに代わる出場指令手段の導入など

電話連絡や緊急情報伝達システムに代わる方法として、消防団員へのアンケート結果(Q10)ではラインが社会に広く受け入れられていることから、ラインでの伝達を希望する消防団員が多くいた。しかしラインは常に着信音を最大にしていることが少なく、他の連絡も多く受信することから、災害の連絡に気が付きにくいいため、特別区消防団員専用の災害受信アプリの開発及び導入を求める意見も多数あった。

このことから、正確かつ迅速に災害が伝達される新しい仕組みが必要であり、新たなシステムやアプリの開発が必要である。

### (2) 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討

(現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入など)

消防団員へのアンケート結果(Q11)では、多い順に東京消防庁公式アプリ(消防水利の位置が地図でわかる機能もある)、震災時に東京消防庁職員が使用する震災時の支援システムで消火栓の使用可否などが予測できるシステムや翻訳アプリを希望していることがわかった。また、少数の意見ではあるが、出場の報告等を電子化により報告する方法の希望もあり、報告の簡素化、デジタル化への対応を求める声もあった。

こうした意見は、少数とはいえ消防団事務の効率化に繋がっていくと考えられるので提言する必要がある。

また、東京消防団 e ラーニングシステムや東京消防庁公式アプリ及び各種タブレットのアプリなどはより使いやすく、ワンノートのようにどこからでもアクセスしやすい仕様にするなど更に使い易さを高めていくべきである。

(3) 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等の検討

(環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上、負担軽減)

本事項の検討は、前回の諮問に対する答申と同内容のものとなるため、今回のアンケートの項目には入れていないが、配置資機材の軽量コンパクト化、ホース延長の負担軽減、手引き台車への電動アシストの導入及び酷暑対策用活動服の導入が**必要である**。

また、今後新型防火衣の導入が予定されていることから、これについても、消防団員の意見を十分に反映させたものとするのが望まれる。

3 消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。

(1) 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討

事務局へのアンケート結果(Q7 及び Q8)では、入団時の団員教育、操法や定期的な訓練の時、消防団員ハンドブックの活用及び e ラーニングの活用があげられている。

また、目標については、特に設定していない事務局と上半期・下半期に署隊と連携訓練実施時に、実災害に則した活動ができることを目標に、各分団が教育、訓練を実施しているとした回答であった。

本アンケートは、東京消防庁消防団課が今年度示した「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」(添付資料 1)が施行される前に実施したものであることから、今後は団員の経験などに応じたレベル別の訓練の実施等、マニュアルに示された訓練の実施が推奨されることになるので、今後は施行されたマニュアルが、現行の団員に則したものであるかどうかの検討が**必要になる**。

(2) 経験豊富な団員(中核となる団員)による訓練指導体制等の検討

事務局へのアンケート結果(Q9)では、操法大会までの事前訓練での個別指導や特別な制度ではないものの、経験の少ない団員への指導や助言を通例的に実施しているとのことであった。

本検討項目についても前項と同様に、今後導入されるレベル別の訓練実施時に、中核となる団員からの指導が必要不可欠なものであり、同時に指導がしやすいよう到達度をチェックして可視化し、指導者が変わっても統一的な指導ができる制度が**必要である**。

(3) 操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討

消防団員へのアンケート結果(Q12)では、現行のままでよいとする消防団員が半数以上であったが、「操法訓練はそもそも必要なし」や「操法訓練を減らして実災害に則した訓練を増やすべきだ」とする意見も全体の約 20%に達するものであった。

操法大会までの事前訓練の回数は各団の分団により様々であるが、競技性を重視



した訓練の実施よりも、実災害に則した訓練を充実させるべきだとの意見が多くあった。

一方で同アンケート(Q6)では、操法大会で良い成績が取れた時に「やりがいを感じる」方が50人も存在し、結果として訓練に関しては「現行のままでよい」とする意見が多くなったものと推測する。

両者の折衷案は、難しいものであるが、消防団員の過重な訓練の実施は、負担の増加となるものであることから、操法大会までの事前訓練と実災害への対応を重視した訓練については、当面各消防団又は各分団の判断によって、自らの特性に応じた訓練の実施方法を検討することが**重要になる**。

#### (4) 訓練効果の確認方策について検討

新たに、効果確認の場を設けることは消防団員にとって負担の増加となることから、前(1)で検討した「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」に示す内容が履行されているかどうかについて、今後消防団合同点検の実施時等で確認するよう変更した方が効率的であると推測する。

消防団合同点検の内容については、近年「実戦的な内容」とすることになっており、同マニュアルにある項目を実施することで、効率的に達成度が**確認できる**。

### 4 地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。

#### (1) 積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法の検討

消防団員へのアンケート結果(Q14)では、意見の多い順に「防災訓練」「災害活動」「救命講習」「お祭りやイベントでの予防警戒」「地域や学校での防災思想の普及」となっている。

災害活動に関しては、前回の諮問に対する答申を踏まえて東京消防庁の消防団課が作成した「特別区消防団の災害活動能力強化に向けたロードマップ」(添付資料2)に基づき、計画的に意識と能力の醸成を推奨する方策が**有効である**。

一方、「防災訓練」等の活動は、これまで各消防団が地域と一体となって活動を行ってきた意識の表れであり、地域の住民に活動をアピールする機会となっている。区や学校等と良好な関係の下に活動を実施していることが推測されることから、これらの活動は今後とも継続して実施していく**必要がある**。

#### (2) 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討

地域のためにと活動している内容が、より多くの地域住民に「伝わる」広報の手段を展開していく**必要があり**、デジタル環境を活用して「より伝わる広報」を積極的に推進していく**必要がある**。

一方で、デジタル環境下にはない方からも信頼を得る手段として、これまでどおりの、防災訓練や座談会、お祭りやイベント時での予防警戒等を継続して実施していくことが**必要である**。

また、更に消防団が消防少年団活動に関与することによって、**地域の子供たちの意**

識に消防団活動を印象付け、また、そのご両親等を通じて地域活動への理解や入団促進にも期待が持てることから推奨していく必要がある。

## 第7 まとめ

首都直下地震発生時に想定される最大623件もの同時に発生する火災に備え、消防団は単独でも主体的に災害活動ができる力を向上させていく必要がある。

しかしながら、「居住地団員」は昼間に不在が多く、反対に「勤務地団員」は夜に不在であるケースが多い。そのためにも、福利厚生サービスの充実や報酬の増額などによる幅の広い充足率の向上策の検討や人材育成により、消防団の組織力をより一層高めることが必要であり、地域住民と力を合わせて災害発生時の被害の軽減を図っていくことが重要となる。

新宿区消防団運営委員会としては、今後も日々変化する社会情勢に柔軟かつ迅速に適応していくとともに、魅力ある消防団活動を展開することによって、住民の負託に応え続けていく方策が必要であると提言する。

別紙 1

新宿区内における消防団員の構成状況

令和6年7月1日現在

1 現員等

	定員	現員	充足率	平均年齢
四谷消防団	100名	87名 (内、女性20名)	87.0%	50.3才
牛込消防団	150名	127名 (内、女性24名)	84.7%	51.3才
新宿消防団	300名	287名 (内、女性83名)	95.7%	50.4才
新宿区合計	550名	501名 (内、女性127名)	89.1%	50.6才
23区全体	16,000名	13,486名 (内、女性3,007名)	84.3%	51.0才

2 年代別人数(基本団員(機能別を含む)+大規模団員)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
四谷消防団	0人	8人	9人	21人	22人	19人	8人	0人	87人
牛込消防団	0人	13人	13人	21人	45人	21人	14人	0人	127人
新宿消防団	3人	26人	23人	69人	90人	61人	14人	1名	287人

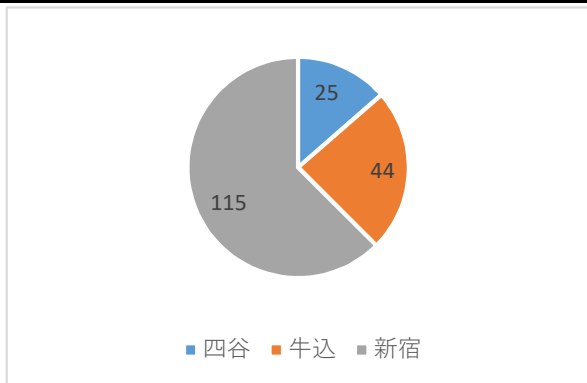
3 団歴別人数(基本団員(機能別を含む)+大規模団員)

	5年未満	5~9年	10~19年	20~29年	30~39年	40年以上	合計
四谷消防団	26人	18人	24人	10人	8人	1人	87人
牛込消防団	28人	32人	33人	20人	10人	4人	127人
新宿消防団	83人	44人	87人	53人	17人	3人	287人

別紙2 (消防団員用)新宿区消防団運営委員会に伴うアンケート調査結果

Q1 所属する消防団名をお答えください

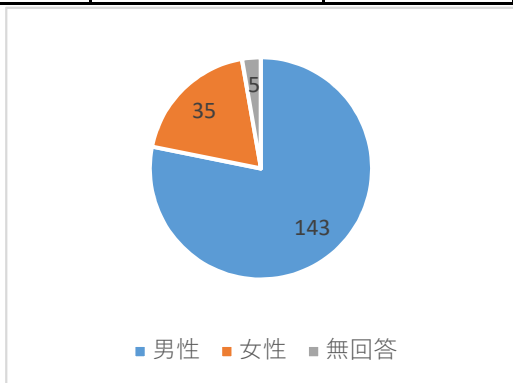
四谷	牛込	新宿
25	44	115



総計 184名

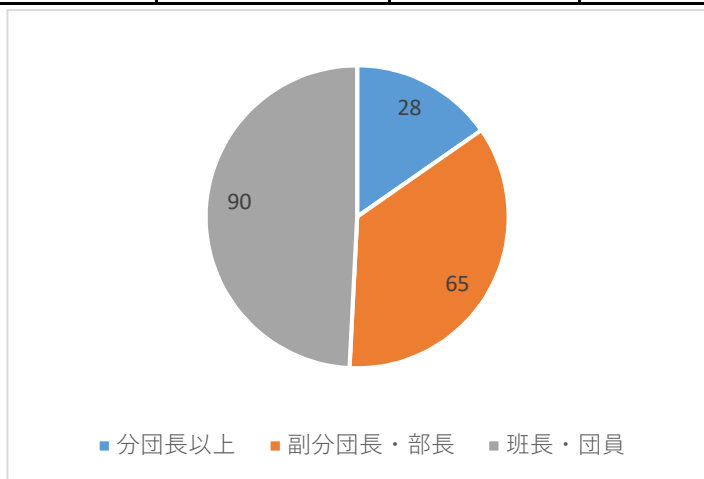
Q2 性別

男性	女性	無回答
143	35	5



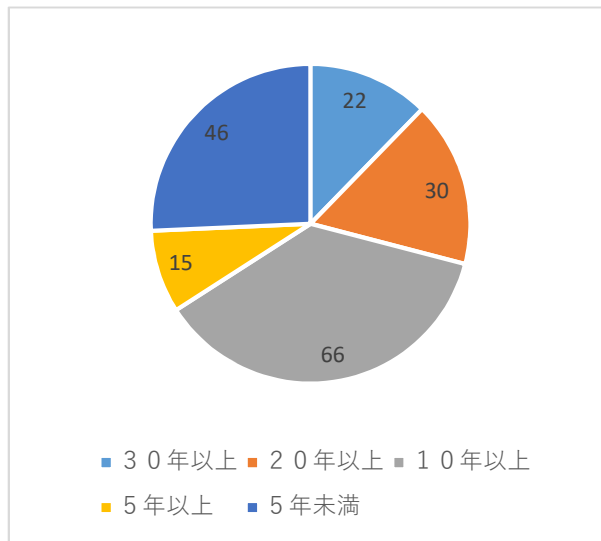
Q3 階級

分団長以上	副分団長・部長	班長・団員	無回答
28	65	90	1



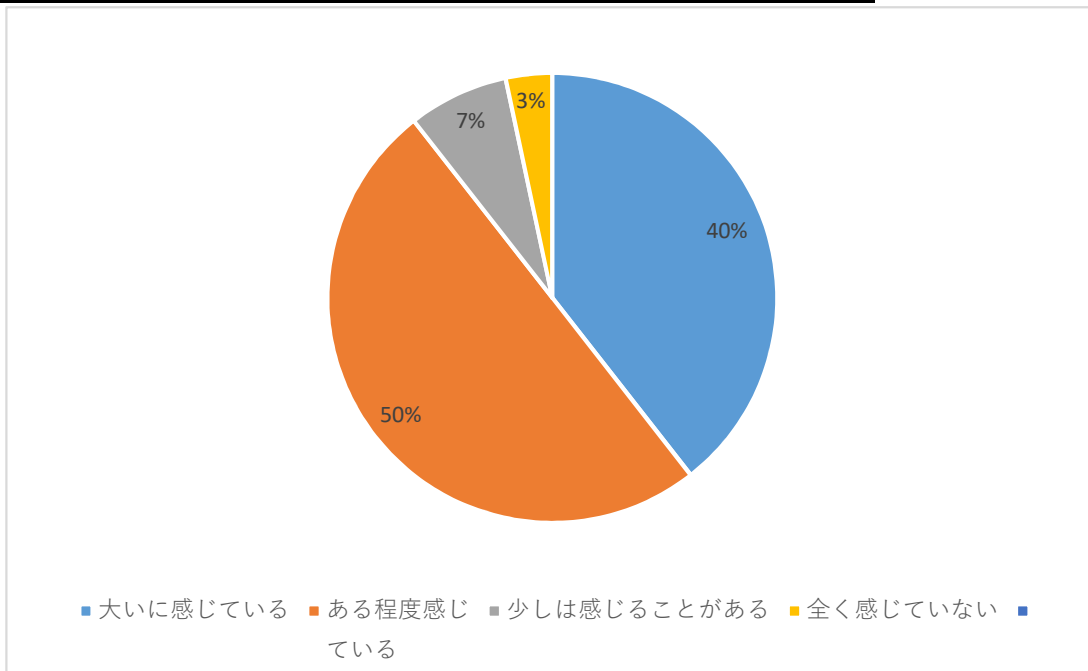
Q4 勤続年数

30年以上	20年以上	10年以上	5年以上	5年未満	無回答
22	30	66	15	46	5



Q5 あなたは消防団活動について「やりがい」をどれくらい感じていますか

大いに感じている	ある程度感じている	少しは感じる	全く感じていない
71	90	13	6

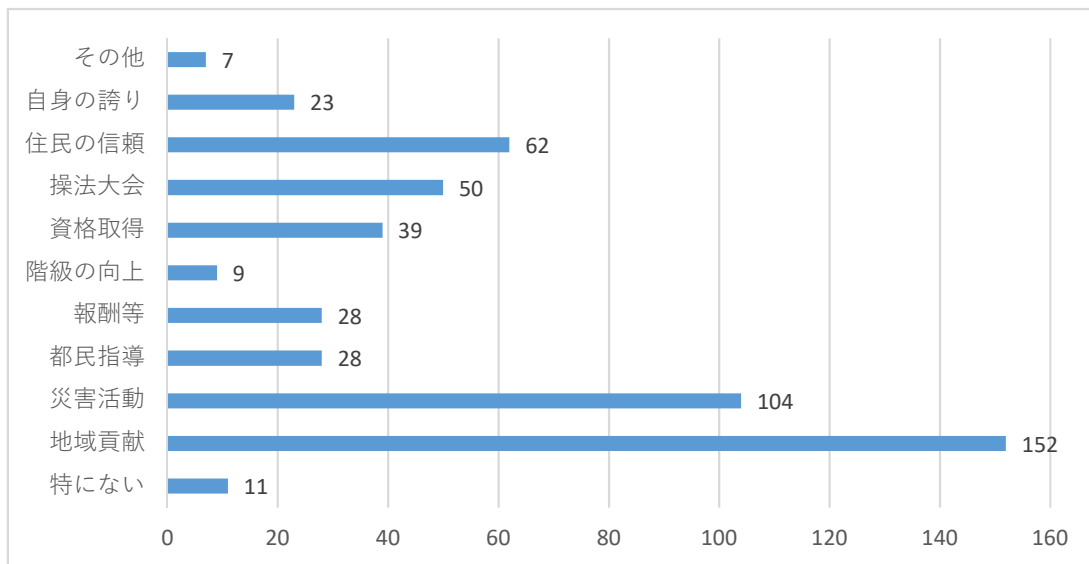


Q6 消防団活動で「やりがいがある」とおもうことをお聞かせください(複数回答可)

特になし	地域貢献	災害活動	都民指導	報酬等	階級の向上
11	152	104	28	28	9
資格取得	操法大会	住民の信頼	自身の誇り	その他	
39	50	62	23	7	

・その他の意見

地域への恩返し	2
実災害に向けた訓練実施時	1
防災意識を持つことができる	1
自分が持てる知識での貢献ができたとき	1
仲間との活動(人間関係)	1
団員同士の良好な関わり合い	1



Q7 消防団活動において希望する資格取得、講座受講があればお答えください(複数回答可)

特になし	危険物取扱者	防災士	応急救護訓練	小型船舶	ドローン
139	3	10	3	6	7
手話					
5					

その他の意見

消防設備士、被災者支援、電気主任、防災教育管理士、防火管理者

ポンプ運用、ペット災害危機管理士

各1

重機の運転、メンタルケア、救命講習、英会話、応急手当普及員

自動車運転普通免許、特殊無線技士、ユニック、フォークリフト

各2

Q8 管内の事業所や新宿が実施する講習や講座で参加してみたいものがあれば  
教えてください

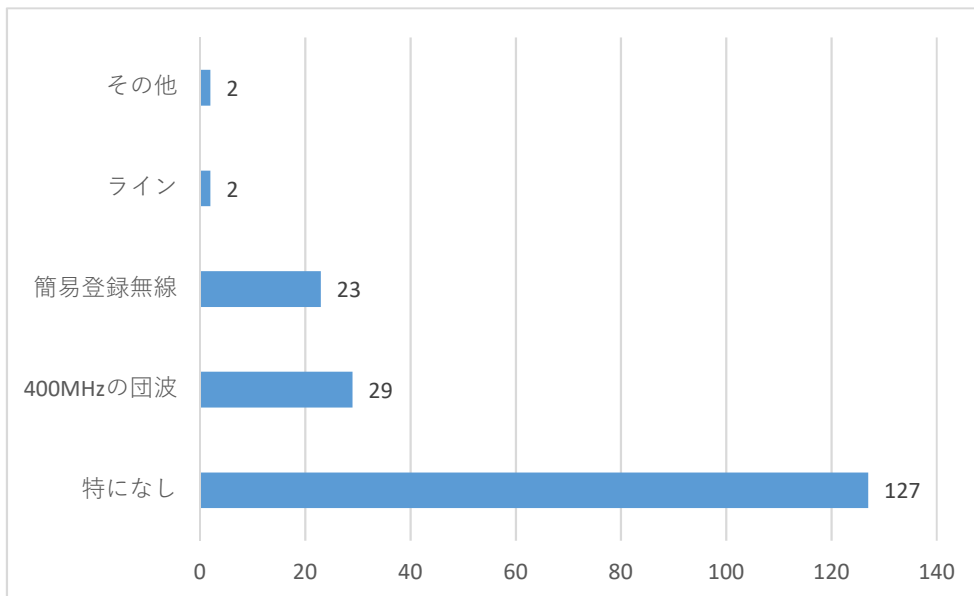
特になし
116

・その他の意見

区役所の災害対応訓練、都市災害に関する講習、BCP講座、手話、防犯対策、  
防災士取得講座、ペット危機管理士取得講座、地域住民とのワークショップ、  
パソコン(エクセル)、外国語、人材育成講座、ロープワーク、安全運転講習  
各1

Q9 MCA無線に代わる無線機や統廃合についての希望をお答えください

特になし	400MHzの団波	簡易登録無線	ライン	その他
127	29	23	2	2
・その他の意見				
MCA無線波使いづらい				1
とにかく簡単に使える無線機				1



Q10 電話や緊急伝達システムに代わる新たな出場指令の伝達方法についてご意見をお聞かせください

変更の用なし	ラインの活用	専用アプリ	その他
50	90	61	5

・その他の意見

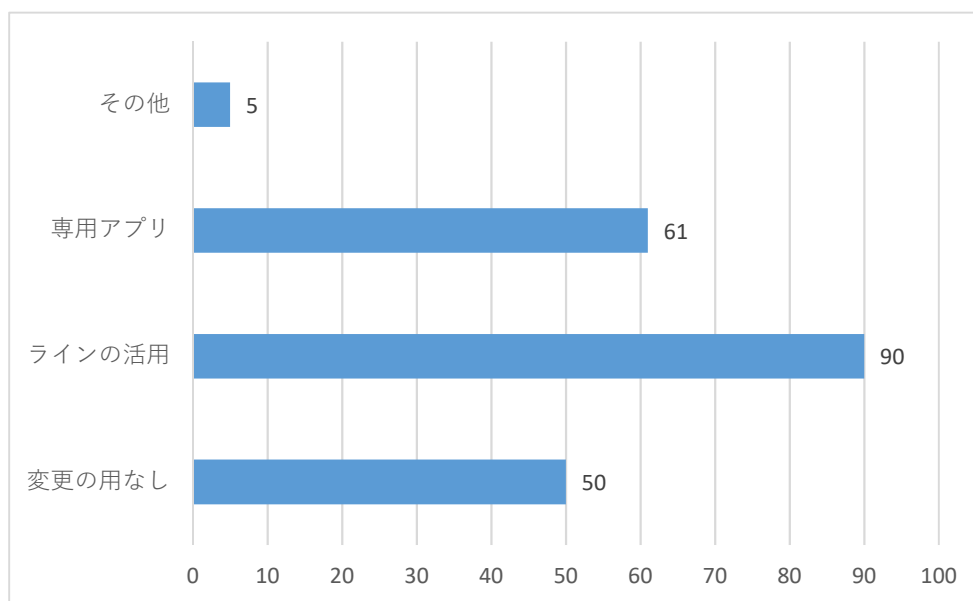
団員専用サーバーをつくる

ラインワークス

災害現場の写真を分団本部へ送付するシステム

チャットワーク

インスタ



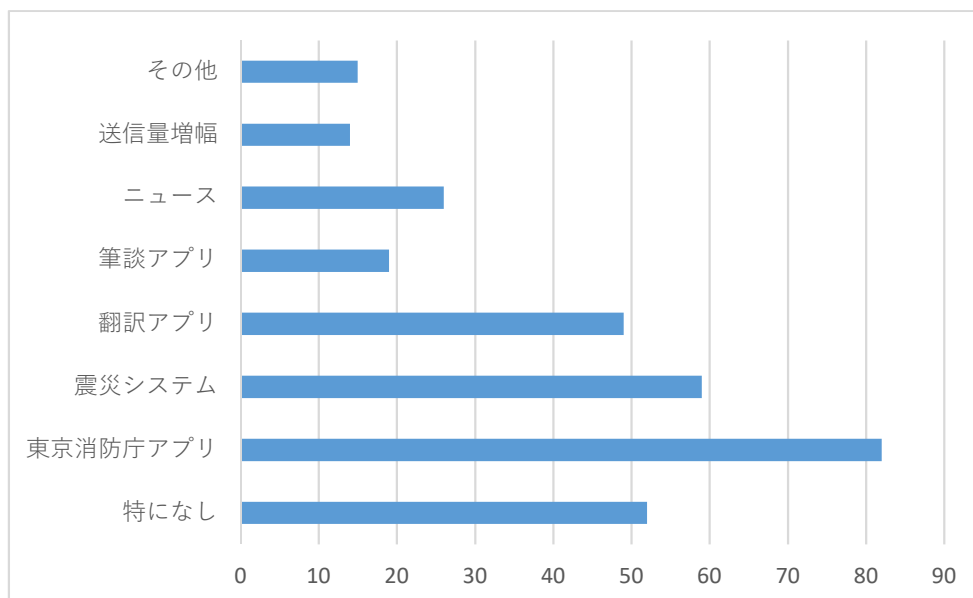


Q11 タブレットを活用することで効率化できることや新たに導入を希望するアプリやシステムはありますか（複数回答可）

特になし	東京消防庁アプリ	震災システム	翻訳アプリ	筆談アプリ	ニュース
52	82	59	49	19	26
送信量増幅	その他				
14	15				

・その他の意見

備品管理や出動記録の事務アプリ	2
電池の長持ち化	1
ラジオ	1
衛星通信	1
消防団員の安否確認システム	1
手話通訳アプリ	1
ペット同行可能な避難所検索アプリ	1
避難所での配給や行方不明の人が分かるアプリ	1
新たなアプリを開発するのではなく、普段使っているツールに入り込むことで目にする機会を増やしたほうが良い	1
タブレットよりスマホを活用すればよい	1
ライン	1
色々な団の活動をデジタルで報告できるシステム	1
団長通知	1
タブレットの増強配置	1

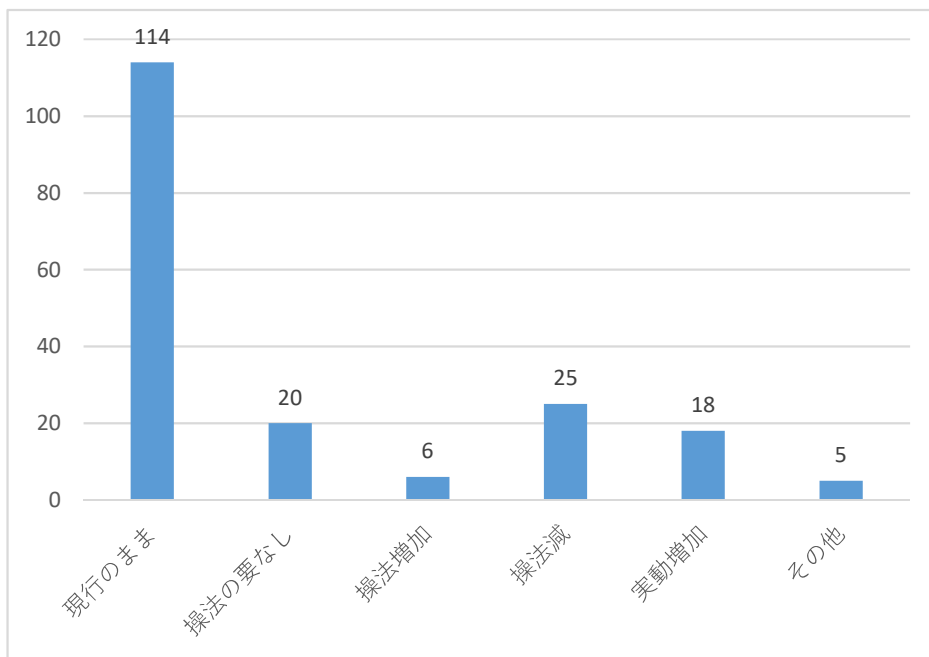


Q12 操法訓練と実動訓練の実施の目安についてお答えください

現行のまま	操法の要なし	操法増加	操法減	実動増加	その他
114	20	6	25	18	5

・その他の意見

日曜日の訓練をやめてほしい	1
競技ではない操法訓練	1
操法訓練の負担、必要性を改めて見直してほしい	1
操法訓練を積載車の訓練に変えてはどうか	1
固定の曜日の訓練はやめてほしい	1



Q12-2 操法訓練の目安は何回程度が希望ですか

(Q12の操法訓練増加及び、訓練減数希望者の訓練実施回数目安の希望)

操法訓練の重要性は理解しているが、大会のための訓練は家族にも自分にも時間が制限される、選手や支援になった場合訓練での充実感はあるが精神的なプレッシャーを感じる。操法の時期が来ると胃が痛くなる。	1
年に10回程度	3
年に5回程度	1
年に2回程度	1
全分団で訓練回数を統一する	1
操法大会を隔年にする	1
通年で月2回	1

Q12-3 実動訓練の目安は何の訓練を何回程度実施するのが希望ですか  
(Q12の実動訓練増加及び、訓練減数希望者の目安の希望)

火災対応訓練を年3～4回	4
火災対応訓練を年2回	2
避難所運営訓練	1
ポンプ車からの放水訓練	1
救出救助訓練をできるだけ	1
火災対応訓練をできるだけ	1
署隊との連携訓練をできるだけ	5
首都直下地震に対する訓練	1
河川からの取水訓練を年1回	1
ロープワークや図上訓練をできるだけ	1
火災、震災の訓練場での訓練を年2～5回	1

Q13 消防団が災害従事する意識向上のために有効だと思われる方策がありましたら教えてください

経験値を上げる、基本訓練を充実させる	2
社会が変わっても、古き良き地域の繋がりを保つモデルケースとして消防団は必要だと思う	1
実災害を体験する	3
過去の災害について研修会を開催する	2
消防署の見学	1
定期的な実動訓練の実施	6
消防署員指導による防災点検	1
費用弁償の増額	1
実災害を想定した宿泊訓練	1
地域ごとの災害の発生状況の情報発信	1
団活動の奏効事例の教養	1
地域住民と触れ合う機会を増やす	5
会議や訓練は仕事との時間配分ができるようにしてほしい	1
被災者の心のケア	1
他の分団との交流の機会を増やす	2
火災時に積載車を積極的に活用する	1
大災害時の団員の経験談を聞きたい	3
色々な講義を聞く	2
署員と団員の情報の共有。訓練の実施などは同じ方向を向いていくことが何より大切だと思います。今は署員の方と団員の意識や考えの違いが大きくて困っています	2

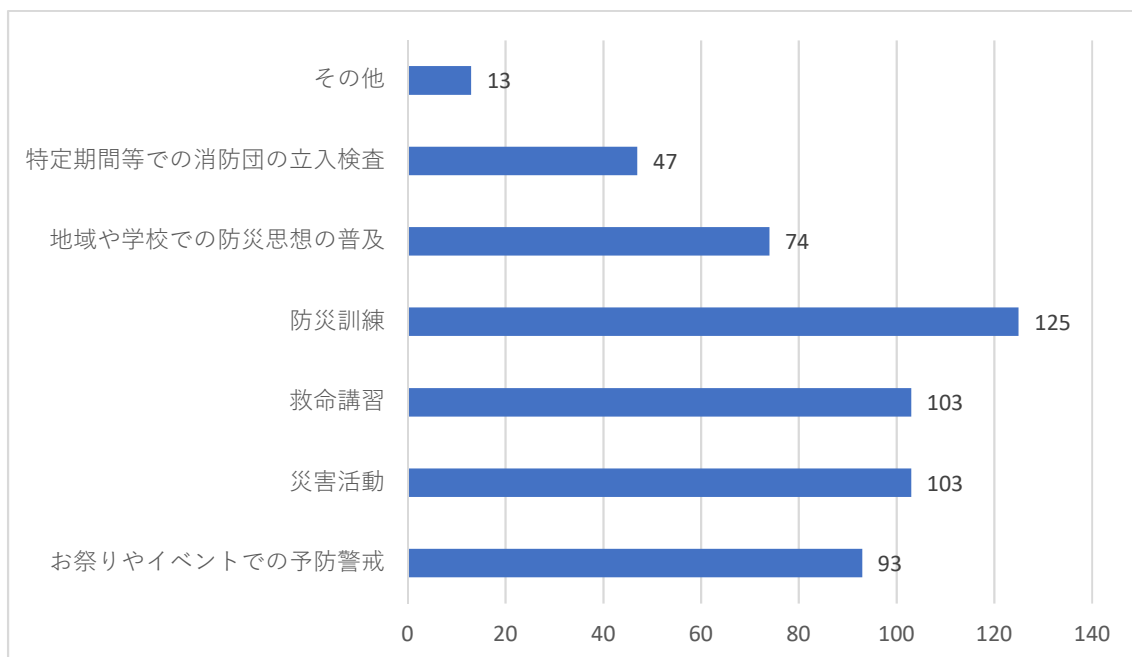
現場での緊迫した映像を見せる	1
資器材の安全な活用方法の習得	1
災害時に出場できる会社の理解が欲しい	1
会社の消防団活動休暇	1
団員用保育所	1
消防少年団員との合同活動	1
災害対策に対する学習の強化	1
テレビやインターネットでもっと消防団をとりあげてもらおう	1
遠距離送水訓練の実施	1
災害時にどういう事が起こり、どう対処するのかをイメージさせる訓練をする	1
消防士体験	1
災害経験者の話や映像を見る	1
他県における災害時の団員の活動状況をDVDなどで見てもらい、普段から我が町の災害時イメージトレーニングが必要	2
災害現場の視察	1
操法大会の訓練時に選手でない支援の団員でも実際に各番手の動きをやってみて基本操作をできる人員を増やす	1
過去の災害活動においてその対応実例を細部まで紹介する	1
新入団員への教育を早めに行う	1
災害は他人事と捉えている人が多い	1
ブラインド型訓練の励行	1
スマホを活用したきめの細かい情報共有	1
署員から直接訓練指導を受けたい	1
資格制度の充実や報酬を上げるなどの方策	1
大規模被災地での応援活動	1
安全な資器材の取扱要領の習得	1

Q14 地域からより信頼される消防団となるために必要だと思われる活動は何だと思います

お祭りやイベントでの予防警戒	93
災害活動	103
救命講習	103
防災訓練	125
地域や学校での防災思想の普及	74
特定期間等での消防団の立入検査	47
その他	13

・その他の意見

色々なイベントに消防団が参加する	2
経験が少なく現場で不安である	1
団員の知識を向上させること	1
ペット愛好家に向けての防災イベント	1
視覚、聴覚、身体障害者とのお祭りやイベントでの予防警戒	1
老人ホームや福祉施設での防災訓練	1
消防少年団とのイベント	1
東京マラソンやスポーツイベントでの予防警戒	1
地域とのコミュニケーション	1
消防団の体験入団	1
団員が集まりません。今後が心配です。	1
人気タレントやアニメキャラクターとのコラボイベント	1



Q15 その他要望や意見があればお答えください

大小問わず希望者が参加できる機会を増やしてほしい	1
平時の活動に力を入れることによって住民の防災意識を高める	1
若い人が地域に少ない、地域で色々な人と関わって消防団に対する理解を求めていきたい	1
eラーニングはアプリにしてほしい	1
被服がなかなか届かない	1
団員証のつくりが雑	1
火災時の出場に関して、延焼中で団に出場指令となりますが、遅くいくと近所の方に何か言われることがあります。下の人は困ることもありますので、早く知りたいと思っています。。署員の人にも団のことをもっとよくわかってもらいたい	1
ジェイコム等ケーブルテレビとのコラボ	1
サッカーチームやスポーツイベントとのコラボ	1
ホームページでの消防団への興味関心を高める効果的なアピール(例、団員の入団きっかけ談、こんな資格が取れる、楽しい仲間との防災活動、有名人との対談等)をドラマ方式や、若者に関心が高いTiktokなどでの展開	1
正服のデザインをもう少しよくしてほしい	1
町会と連絡を密にとり、街から団員を加入させて活動をする	1
若い人に操法大会を見てほしい	1
昔に比べると平日の救命講習が多くなり、仕事と団活動の両立が難しくなってきた	1
消防職員と団員の違いが分っていないと思うので何が違うのかを説明する。署員と別に団員が必要な理由をもっと公にしないと分からないと思う。入る意味が分からない。	1
消防団は絶対的なマンパワーが必要で、現場団員の確保に大変苦労しています。特に震災時の活動に不安を感じており、居住地団員は昼間不在、勤務地団員は夜間不在となり、MAXでも50%ほどであり、実情としては数名なのではないかと思う。団員の確保のために福利厚生や報酬の増額を是非検討してほしい。	1
eラーニングをもっと充実させてほしい	1
中学校でD級ポンプの訓練をやりたいとのこと	1
災害対応は他人事と思っている人が多い	1
アンケートは電子化してほしい	2
行事・訓練の予定をもっと早く教えてほしい	1
東京消防庁のeラーニングは良いシステムだと思う	1
書類やFAXでの連絡をやめるべき、メールでの連絡や出場報告ができるように	1

時代の変化に柔軟に対応していくことが必要	1
目標を立てる	1
定期的な実動訓練を実施したい	1
とにかく団員を増やすための勧誘を強力に行わないと消防団活動が存続できなくなる	1
外国人を入団させるような制度改革には反対します	1
分団本部へのWi-Fiルーターの整備	1

別紙 3

(消防団事務局用)新宿区消防団運営委員会に伴うアンケート調査結果

Q1 所属する消防団名をお答えください

四谷	牛込	新宿
1	1	1

Q2 消防団活動において希望する資格取得、講座受講があればお答えください

応急手当普及員	危険物取扱者	アマチュア無線	特になし
1	1	1	1

Q3 管内の事業所や新宿が実施する講習や講座で参加してみたいものがあれば教えてください

特になし	指導者、管理者、経営者を要請する講座
2	1

Q4 MCA無線に代わる無線機や統廃合についての希望をお答えください

特になし	400MHzの団波	簡易登録無線	ライン	その他
	3			

Q5 電話や緊急伝達システムに代わる新たな出場指令の伝達方法についてご意見をお聞かせください

変更の用なし	ラインの活用	専用アプリ	チャットワーク	インスタ	その他
	2	1			

Q6 タブレットを活用することで効率化できることや新たに導入を希望するアプリやシステムはありますか

プロジェクター モニターへの接続	東京消防庁アプリ	震災システム	翻訳アプリ	筆談アプリ	ニュース
1	2	1	3	1	1



Q7 新入団員や経験の浅い団員に対する人材教育方法についてお答えください

入団時や定期的な教養または訓練を実施している	3
東京消防団eラーニングの活用	3
消防団員ハンドブックの活用	3
操法訓練や各種訓練の際に実施している	2

Q8 Q7の具体的な目標や到達状況の確認方法があれば教えてください

特にない	2
上半期、下半期に一回ずつ署隊と連携訓練を実施し、そこで実災害に則した活動ができるかを確認している。	1

Q9 経験豊富な団員や訓練指導者の訓練指導体制についてお答えください

操法大会までの事前訓練での個別指導	2
各分団での教養	1
特別な制度はなく、団員へのアドバイスや助言を通例的に実施	2

Q10 消防団が災害従事する意識向上のために有効だと思われる方策がありましたら教えてください

消防署での宿泊訓練	1
全国の消防団員の実災害での活動事例紹介(eラーニング活用)	1
実災害に則した訓練の実施	1
災害現場での積極的な活動を促進し、署隊と連携を図る	1
消防団の活動審査会	1

Q11 地域からより信頼される消防団となるために必要だと思われる活動は何だと思いますか

お祭りやイベントでの予防警戒	3
災害活動	3
救命講習	2
防災訓練	3
地域や学校での防災思想の普及	3
特定期間等での消防団の立入検査	1

Q15 その他要望や意見があればお答えください

在庫欠品による被服の配布遅延の解消	1
活動服に名札を付けてほしい	2



# 消防団員の活動レベルに応じたより効果的な訓練方策

## 「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」の策定

### マニュアルの目的等

首都直下地震等に想定される同時多発する火災に備え、各消防団員の経験等に応じながら訓練が実施できるよう、**各種訓練をレベル別に示し、災害活動力のさらなる向上を目指して作成**

### 災害活動タイムラインによる災害活動への理解促進

火災対応の推移を理解することで、効果的な訓練を推進



### 団員の経験等に応じたレベル別の各種訓練の推進

各種基本訓練、総合訓練等をレベル別に提示

第1部 基本訓練  
第3 放水訓練

火災の状況等により、ノズルの操作を行い、ストレート注水や噴霧注水を行うとともに、注水方法についても直撃注水、反射注水、拡散注水など、状況判断しながら放水することが大切です。

レベル1	レベル2	レベル3
基本的な放水要領の習得	各放水種別による放水要領の習得	総合
① 管そうとホースを確実に結合・離脱できる。	① 優先交替ができる。	① 開口部を通じて、屋内に反射注水ができる。

### 東京消防団e-ラーニングシステムとリンクした効果的な訓練の推進

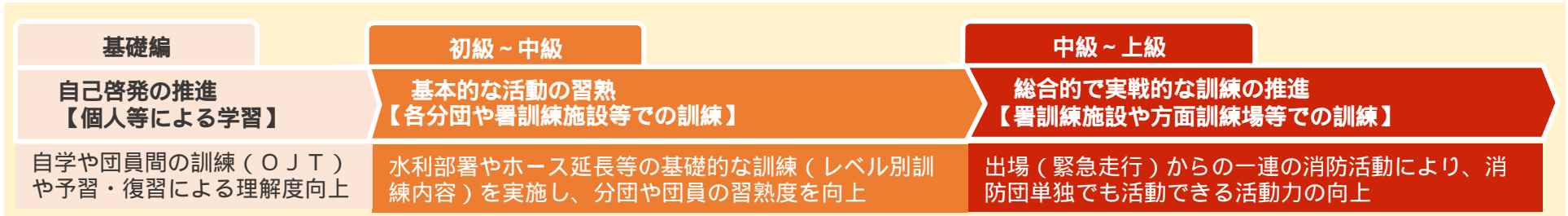
動画や資料を閲覧できる構成とし、効果的な訓練を推進

### 訓練時の安全管理や指導者の心得等を掲載

訓練時の安全管理のポイント等を掲載し安全意識を醸成

### 教育訓練の体系イメージ

基礎は、階級や経験を問わず、個人の学習や団員間でのOJTとし、その上で、本マニュアル等を活用して、団員の知識・経験等に応じたレベル別の実戦的な訓練を推進する。



災害活動タイムラインによる理解促進

e-ラン等による学習

訓練モデルによるレベル別の実戦的な訓練の推進

方面訓練場活用マニュアル（仮称）の活用

# 特別区消防団の災害活動力強化に向けたロードマップ



【令和6年度 第2回新宿区消防団運営委員会】

『議事録』

令和7年1月15日 開催

# 【令和6年度 第2回新宿区消防団運営委員会】

## 『議事録』

日時：令和7年1月15日（水） 15時00分から15時13分まで

### 1 開会

#### ○防火防災対策担当副参事

定刻となりましたので、只今から令和6年度第2回新宿区消防団運営委員会を開催いたします。委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。司会進行を務めさせていただきます、新宿区危機管理担当部の防火防災対策担当副参事の伊藤と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。それではお手元の次第に従いまして進めさせていただきます。次第2、委員長挨拶。新宿区消防団運営委員会委員長であります、吉住区長から挨拶をいただきたいと思ひます。委員長お願ひいたします。

### 2 委員長挨拶

#### ○委員長(区長)

新宿区消防団運営委員会委員長の吉住でございます。本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。また皆様には日頃から防火防災行政をはじめ、区政全般にわたりましてご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。さて今回の消防団運営委員会については令和5年8月16日付、東京都知事から「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」との諮問がございました。過去2回の委員会や各消防団員へのアンケートをふまえ、今回、答申案がまとまっております。この新宿区の答申が消防団員の皆様のやりがいや、災害に対応する力を高め、かつ区民の期待に応えながら活動するための方策につながるよう、ご審議の程よろしくお願ひします。なお本委員会は公開とし、審議内容もホームページ上で公開させていただきますので、あらかじめご了承願ひます。委員の皆様には限られた時間ではございますが、ご意見をお願

いいたしまして挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 定数の確認

#### ○防火防災対策担当副参事

委員長ありがとうございました。次に次第3、定数の確認でございます。本日1名の委員が御都合により欠席されておりますが、18名中17名の委員にご出席いただいております。定足数に達しており、本委員会は成立しておりますことを皆さまにご報告いたします。それではこれより議事進行を委員長にお願いいたします。

### 4 議題

#### ○委員長(区長)

はいそれでは次第4、議題。諮問事項「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策をいかにあるべきか」を事務局から説明をお願いいたします。

#### ○牛込消防署警防課長

皆さんこんにちは。牛込消防署の警防課長永田でございます。本日はよろしくお願いいたします。それでは説明に入る前に、資料の確認をさせていただきます。今回の資料はこちらの新宿区消防団運営委員会答申書(案3)、1冊のみでございます。1ページめくって頂きまして、目次と1ページ、次が2ページ・3ページ、4ページ・5ページ、6ページ・7ページまでが本文となっております。

8ページが別紙1。

9ページ目から別紙2、10ページ11、12、13、14、15、16、17、18、19、20ページまでが別紙2となっております。

別紙3は21ページ目から23ページ目まで、1枚めくりまして24、25ページが添付資料1、2となっております。落丁乱丁ございましたら、お取替えいたしますので事務局まで



お知らせください。よろしいでしょうか。それでは早速説明に入らせていただきます。

まず表紙でございます、(案3)と記載されております。これは7月11日に行われました、令和6年度第1回新宿区消防団運営委員会で話し合いました答申書案の内容を事務局で修正したものを(案2)といたしまして、委員の皆様へ郵送にて送付させていただき、内容を確認させていただきました。誤字脱字などのご指摘のほか、特にご意見はなく、ご指摘の部分を修正したものがこの(案3)となります。本日はその修正した箇所について説明させていただきたいと思っております。

それでは1ページおめくりください。全体として赤字の部分が前回からの修正部分となっております。

目次の7ページ以降のページ数が赤字となっております。こちらは修正したためにページ数に変更になっていること、および資料についても第1回では別冊になっていたのですが、(案3)については、一冊にまとめましたのでページについても統合されたものとなっております。

もう一つ全体的に2ページ目以降の第6提言の、各文末についてですが、第1回では「何々のように推測する」というような表現でしたが、審議させていただいた結果であり、委員会としての答申となりますので、すべて「必要である」と断定の表現に改めさせていただきます。それでは1ページ目からご説明いたします。

1ページ目については修正ございません。1ページおめくりください。2ページ目は、まず2行目です。アとイが赤字となっておりますが、このアの「MCA無線に変わる無線機への」というところは、第一回目では追加の検討項目として別冊となっていたものを、この本文に挿入致しましたので、このように修正させていただきました。内容については変更ございません。

続きまして29行目です。「Q4」および「Q5」のところが赤字となっておりますが、これはこの内容が、どのアンケート結果から引っ張ってきたのかがわかるように追加させて

頂いております。最後に下から 3 行目でございます。「しかしながら」から次の 3 ページ目の、「ぜひ検討すべきである」が赤字となっておりますが、これは大山委員の意見を反映したものでございます。

続きまして 3 ページ、続きます。5 行目ですね「このことから、より地域に寄り添った活動を、より多く行うことが消防団員のやりがい向上のために必要である」というところが赤字となっておりますが、こちらは表現をわかりやすく改めさせていただいたものとなっております、内容については変更ございません。

次に下から 1 行目ですね、「また」から次の 4 ページ、2 行目の「増やすべきである」までが赤字となっておりますが、こちらは大山委員の意見を反映したものとなっております。

続きまして 4 ページの、5 行目アの「MCA 無線に変わる」から 13 行目の「導入など」までが赤字となっております。こちらも別冊であった追加の検討項目を挿入したのとなっております。内容変更はございません。

続きまして 5 ページ、1 行目の「また東京消防団 e ラーニングシステム」から 3 行目の高めていくべきであるが赤字となっております。こちらはおやまだ委員の意見を反映させていただいたものとなっております。

1 ページおめくりください。6 ページは下から 1 行目ですね、「またさらに消防団が」から次のページ 7 ページの 2 行目の「推奨して行く必要がある」までが赤字となっております。こちらは山口委員の意見を反映したのとなっております。

続きまして 7 ページです。6 行目の「しかしながら」から 9 行目の「必要であり」が赤字となっております。こちらは大山委員の意見を反映したのとなっております。

1 ページおめくりください。8 ページ、別紙 1 こちら全体的に赤くなっているんですけども、2 行目の日付が赤字となっております。「令和 6 年 7 月 1 日現在」、これは一回目では 5 月 1 日現在であったものを、最新の 7 月 1 日の数字としたものでございます。従って 1 の現員等を 7 月 1 日現在の数字に変更しております。また 2、3 の表については藤原委員の意

見を反映して挿入したものでございます。どのような意見だったかという点、1ページめくっていただいておりますね、10ページ目の上の勤続年数のところでございますけれども、藤原委員のご質問は「アンケートを実施した方の勤続年数5年から9年の割合が少ないが、実数も少ないのか、たまたまなのか、万が一実数が少ないのであれば、何か対策を立てなくてはならないのかもしれない。」というものでございました。この表を見ていただければ分かる通り、アンケートを実施した5年から9年の勤務年数の消防団員3署合わせて15名、アンケートをとった、全体が184人なので8.1%ということになっております。

8ページに戻っていただきまして、こちらの3の団歴別人数の表をご覧ください。実際の5年から9年の勤務年数の消防団員の方は3署合わせて94人となっております、総数でいきますと501人になりますので、割合としては18.7%ということで、アンケートをとった方は8.1%、実数は18.7%いらっしゃるということで、以上のようなことから、今回たまたまアンケートを依頼した勤続年数の5年から9年の消防団員の割合が少なかったのかなと思われまいますので、本件に対しては特段の対策が必要はないと思料しております。

続きまして9ページ以降でございますが、9ページ目以降はページ数が赤くなっている他、修正点は特にございません。以上で事務局からの説明は終了させていただきます。ありがとうございました。

#### ○委員長(区長)

ありがとうございます。只今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。

特によろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは修正意見がないようですので、本答申案を成案とし東京都知事に答申するものといたします。円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。以上で審議を終了し、進行を事務局にお返しいたします。

## 5 その他

○防火防災対策担当副参事

委員長ありがとうございました。それは次第5、その他、今後の予定~~。~~について報告させていただきます。委員長からの通り本答申案を成案として3月31日までに東京都知事に答申するものといたします。また、本日の委員会の議事録が完成次第、皆様に送付させていただきますので、お手数ですが内容の確認をお願いいたします。修正等がなければ区のホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。

## 6 閉会

○防火防災対策担当副参事

それでは、以上をもちまして令和6年度第2回新宿区消防団運営委員会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。